令和６年度 東広島市教育委員会主催・広島大学マスターズ共催市民講座
「自分史を中心とした広島大学の変遷と展望」

広島大学マスターズ会員　　白浜 博幸

開講日時：2024 年 10 月５日（土）・19 日（土）・26 日（土）・11 月９日（土）　10：30～12：00
会場：市民文化センター 研修室２

以下の内容で４週分の講義を行ないました。

1. 新制広島大学の設立
2. 自分史における広島大学の変遷と発展
3. 将来の在り方
4. つれづれなるままに

新制広島大学の設立は昭和 24（1949）年４月であった。広島文理科大学、広島高等学校、広島工業専門学校、広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校及び広島青年師範学校を包括し、広島市立工業専門学校を併合した形で設立された。当時、認可された学部は政経学部、文学部、理学部、工学部、水畜産学部、教育学部の６学部であった。現在は、総合科学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、生物生産学部、情報科学部の 12 学部である。

本講義では、以下の自分史を中心にお話しをさせていただいた。

2.1　学生時代、2.2　三井（東圧）化学時代、2.3　統合移転を経た変遷と発展：2.3.1　工学研究科応用化学科（須澤研）時代、2.3.2　オランダ留学時代、2.3.3　応用化学安田研時代、2.3.4 応用化学塩野研時代、2.3.5　地域共同研究センター、産学連携センター、産学・地域連携センター時代

私が入学した際（1969 年）には学生運動が最も激しかった時代であり、広島大学には入学はしたものの中核派の学生などにより正門が封鎖され学内には入れず、半年間は自宅待機の状態が続いた。機動隊導入により封鎖は解除されたものの、後期の 10 月からの授業も学生運動家により邪魔され、単位の認定は殆どがレポート提出によりなされた。

その後の大きな出来事はやはり大学の統合移転であろう。1982 年に全学の先頭を切って工学部が西条キャンパスに移転してきた。全学の移転が完了したのは 1995 年３月末であり、実に 13 年もの多くの年月を有したことになる。この間、大学内及び周囲の環境も整い漸く勉学・研究の体制が完備されたこととなった。次の大きな変化は国立大学の法人化（2004 年）である。このことにより、特に理系の研究者は国からの研究費の大幅な減額を被り、産学官連携などを促進して研究費を賄う必要性に迫られた。

今後の大学の在り方として課題は、少子化による大学間の生き残りをかけた競争が激しくなることが挙げられる。このためには本学も総合大学としての特徴を活用して研究力を高めて、国内外からの大型研究資金の獲得や国際的な評価機関からの評価を得て、大学の価値を向上させる必要があろう。つれづれなるままにでは、座右の銘としての「不易流行」などについて話しをさせていただいた。